

リハビリ通信



リハビリテーション課では、通所をご利用頂いている利用者様の体力測定を毎月行なっています。日常生活に於ける“立つ・歩く・座る”等の基本動作をご自身でどれくらい行え、またリハビリテーションによってどれだけ改善したかという「変化」を知る事は大変重要です。その結果如何によってゴールの変更やプログラムの修正を行ないます。左の写真は立ち上がりテストの一場面です。利用者様も体力測定の趣旨をご理解の上、一所懸命に取り組んでおられます。何事も成果が見えると嬉しいものですね。

■ ボランティア募集

当施設では各種ボランティアを募集しております。ジャンルは問いません。但し充足しているジャンルの場合や当施設の方針にそぐわない場合、必ずしもお受け出来ない場合もございます。まずは下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

TEL : 0493-56-6123
担当者：鈴木恵美子

■ 1月の趣味の教室

★ 書道教室【大倉 佳子先生】

1月18日(月)
1月25日(月)
2階 13時30分～

★ 折紙教室【田中 三枝子先生】

1月13日(水)
2階 13時30分～

★ 詩吟教室【佐藤 謙先生】

1月27日(水)
2階 13時30分～

★ 編物教室【梶谷 和子先生】

1月12日(火)
1月26日(火)
2階 13時30分～

■ 1月の行事予定

- ★ 1月8日(金)、9日(土)
甘酒作り 10時～
- ★ 1月20日(水)
「まほろば」様によるオカリナの演奏会
2階 機能訓練室 13時30分～

■ 定例催し物

★ 音楽会【宮岡 久美子様】

1月15日(金) 10時40分～ 3階

★ 朗読【関根 洋子様】【高橋 政子様】
【小川 かづ江様】【木村房子様】
【あすなる様】

1月12日(火) 15時30分～ 2階

1月14日(木) 15時30分～ 2階

1月20日(水) 15時30分～ 3階

1月21日(木) 15時30分～ 3階

1月26日(火) 15時30分～ 2階

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年も皆様に愛される紙面作りを心掛けて参ります。宜しくお願い致します。

編集責任者 金子 弘幸



いづみのホームページ <http://www.kokoro.or.jp/izumi-care/>

介護老人保健施設いづみケアセンター



〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町和泉 873
TEL0493-56-6123 FAX0493-56-6124



強く生きる



フードサービス部
係長 谷井 税

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。年頭に当たり、昨秋私が非常に感銘を受けた書籍をご紹介させて頂くと共に、読後感想と現在の所感を申し述べたいと思います。

当施設では役職者が毎月1回、致知出版社の月刊誌「致知」を用いて、人間力を高める目的で勉強会を行なっています。予め指定された3つの記事を読み、最も心に響いた記事の感想文を書いて全員が発表するのですが、昨年9月に課題として与えられた記事の一つに強く心を揺さぶられました。その記事は全盲の東大教授・福島智氏と、実母で“指点字”の考案者・福島令子氏との「自分を主語にして生きる」という対談記事でした。この記事に触れたことがご縁で、智氏の著書「ぼくの命は言葉とともにある(致知出版社刊)」と出会いました。9歳で失明し18歳で聴力をも失った智氏は、母親の令子氏の献身的な愛情の中で逞しく生き抜き、最高学府の長たる東京大学の教授にまで昇り詰めました。18歳で光と音を失った著者・智氏が絶望の淵から如何にして希望を見出したのか……。想像を絶する状況の中で、“必ず生き抜く”と決意して母子二人で歩んだ道程は、親子愛の神髄であると教えられました。是非多くの方々に紐解いて頂きたい感動の一冊です。

私には7歳になる一人娘がいます。片方の耳に障がいがあり、生まれつき聞こえません。智氏は子供の頃に、目が見えない事を心配する母を想い「見えている」と嘘をついたそうです。実は私の娘も同じなのです。私や家内が耳の聞こえない事実を知ったら悲しむとされているのでしょうか。聞こえているふりをしている娘を見ると、切なくて胸が張り裂けそうになります。今はまだ不自由さをどれだけ自覚しているのか計り知れませんが、成長と共に必ず困難な状況に直面する時が訪れると思います。その時、私は福島親子の様に現実を受け止め、困難と向き合い、立ち足る壁を乗り越え、娘が立派に生きていける様に導きたいと思います。幸い私自身は五体満足です。それがどれほど有難い事なのか、娘が教えてくれました。これからは私が娘に「ハンディがあったからこそ幸せになれた」と思える人生を送れる様、父親として、そして人として、最強の応援団長で在り続けようと思います。

施設に於いてはフードサービス部の責任者として、今まで以上に美味しい食事を提供して参ります。「食事が目的でいづみケアセンターを選びました」と仰って下さる利用者様をもっともっと増やし、ご満足頂ける様に努める所存です。私の生き方、後ろ姿を娘に見せる為にも……。今年もフードサービス部の各種取り組みに、温かいご支援と深いご理解を賜ります様、心からお願い申し上げます。

施設の行事

■滑川町文化祭 11月1日(日)～3日(火)



利用者様が日頃の趣味活動で制作した作品を滑川町の文化祭に出品し、その展示会場である町のコミュニティーセンターへ見学に出かけました。自身の作品が美しく飾られていることを確認し、利用者様も一様に達成感を感じておられました。また沢山の作品を見て、新たな創作意欲が掻き立てられた様子でした。次回へ向けての作品作りは、既にスタートを切りました。

■トーンチャイム演奏会 12月15日(火)



演奏グループ“ドルチェ”さんにお越し頂き、トーンチャイムの素敵な音色を披露して頂きました。会場に響き渡る透き通った音の心地良い演奏は、聴く者の胸に深く沁み込み

ました。まるで心が洗われる様なひと時でした。利用者様からは、早くも次回が待ち遠しいとのお声も聞かれました。

■大正琴演奏会 12月24日(木)



クリスマスイブの日に大正琴演奏グループの“琴伝流スイートピー”さんにお越し頂きました。大正琴とクリスマスソングが思いのほかマッチして、年末の季節感の中でロマンチックな雰囲気をも味わいました。大正琴の素敵な演奏を有難うございました。

■番匠一座夢ちんどん 11月13日(金)



昔懐かしい“ちんどん屋さん”が施設にやってきました。クラリネットやサクソによる独特な曲調に、賑やかな鉦や太鼓の音が調和して、ド派手な衣装と共に利用者様の心を惹き付けました。最近ちんどん屋さんを町では全く見かけなくなりましたが、改めて間近に拝見すると古き良き時代の郷愁を感じます。利用者様も大層懐かしかった様子で、ちんどん屋さんの列に加わって踊りながら付いて行かれる方もおられました。番匠一座夢ちんどんの皆様、有難うございました。是非またいらして下さいね。

■車椅子ダンス 12月22日(火)



巷にクリスマスキャロルが流れる季節になると、決まって“狭山ユニークダンス”の皆様がご来訪下さいます。サンタクロースの衣装に身を包み、今年も華麗なダンステクニックを披露してくれました。利用者様も音楽に合わせて、ワルツやタンゴと一緒に踊って楽しみました。フロアに広がる満面の笑みとダンスの輪は、まるでダンスホールに咲いた大輪の花の様でした。

新入職員紹介



- | | |
|-----|-----------|
| ①氏名 | ②職種 |
| ③趣味 | ④ひと言メッセージ |

- ① 渡邊陽子
- ② 介護福祉士
- ③ 登山、手芸
- ④ 姿を見かけたら気軽に声を掛けて下さい。

特集「入所課・通所課お楽しみ企画」

今号の特集は、入所課と通所課によるお楽しみ企画を取り上げました。特に利用者様から好評を博した10月の「季節外れ花火大会」と12月の「忘年会」を紹介します。何れの企画も職員による緻密な計画と周到な準備の下に運営実行されました。成功の秘訣は“職員自ら楽しむこと”。自分が楽しくなくちゃ、利用者様へも伝わりませんから……。これからも暮らしの中に潤いを齎す一助として、お楽しみ企画をてんこ盛りでお届けします。皆様、どうぞ期待して待っていて下さいね。

入所課花火大会



季節外れの花火大会を中庭で開催しました。夏の残りの花火ではありません。「こんな企画もむしろ乙ではないか」という職員の独創的な発案です。沢山の花火を用意して、日暮れを待ちました。夕闇の訪れと共に花火に点火です。眩しい閃光と美しい何色もの火花……。利用者様も花火を手にとって、硝煙の中で童心に帰りました。日本の情緒って素晴らしいですね。

入所課忘年会



一年を締め括る“お楽しみ企画の集大成”とも言うべき大忘年会。二部構成で、第一部は職員による余興の時間です。今年は寸劇「一休さん」が披露されました。シナリオ、キャスト、衣装、大道具、小道具、ナレーション、全て職員による手作り劇団です。この日の為に何日も稽古を積み上げて本番に臨みました。ストーリーはとんち名人の一休さんが、子供の親権問題を大岡越前ばりの名裁きで解決するという人情味溢れる展開……。役者達の迷演技に会場は爆笑の渦に巻き込まれました。

続いての第二部は恒例の大宴会。お酒や肴もふんだんに振る舞われ、ほろ酔い気分で会話も弾み、忘年会も最高潮を迎えました。勿論下戸の方にもお好きなお飲み物と和菓子、洋菓子をお出ししました。利用者の皆様、楽しく一年の締め括りが出来ましたか？

通所課忘年会



12月11日(金)、12日(土)の両日、通所課の忘年会を開催しました。通所課は当施設屈指の芸達者揃い。終戦間もない頃に笠木シヅ子が歌って大ヒットした「東京ブギウギ」に乗せて、当時を彷彿とさせるレトロな衣装を身に纏った美人揃いの職員が、妖艶な踊りを披露しました。男性利用者様は全員ノックアウトされちゃったのでは？

続いてギターとアコーディオンの楽器演奏です。腕に覚えのある職員2名が玄人裸足のテクニックを披露し、多彩な才能の片鱗を見せつけました。“芸は身を助ける”という言葉がありますが、妙に納得です。次の企画も仕込みの真最中。皆様乞うご期待！